

ほっこりだより

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel: 075 (931) 5934

http://www.h-mukou-ch.jp/

第52号 2010年3月7日 発行

坂本竜馬を斬った男の 第二の人生は……

今、坂本竜馬が話題になっています。NHKの大河ドラマ「竜馬伝」も後押ししています。坂本竜馬は幕末に活躍した志士の中で最も人気の高い人物と言えるでしょう。乱世に、維新の大輪の花を咲かせようと三十三歳で散っていったその豪放磊落な生涯は、閉塞感にとらわれた現代だからこそ、人々のあこがれの対象となるのかも知れません。竜馬については、ドラマを通して十分理解することができそうです。ここでは、竜馬を斬った一人の人物とその生涯を取り上げて見たいと思います。

今井信郎(のぶお)という名前を聞いたことがあるでしょうか。彼は京都見回り組の隊員で剣の達人としても知られていました。彼が竜馬暗殺の真犯人として浮上したのです。確かに竜馬暗殺に関してその犯人と動機については諸説がありました。新撰組が犯人と言っ強い証言もありました。しかし、事件から三十年余り過ぎた時、今井は自ら実行犯であることを証言したのです。

事件後、逃げ延びた今井は公にならず、新政府の大赦によって放免され、静岡県牧の原に流れ、開墾活動をするようになりました。没落武士のなれの果てでした。

しかし、ここから今井信郎の第二の人生が始まるのです。彼はかつて賊軍だったとは言え、元幕臣の身、村人たちからは「殿様」と一目置かれ、地元の農業発展に寄与したようです。

この頃の日本は、すでに廃藩置県が実施され、ちよんまげや帯刀も禁止、暦は太陽暦が用いられ近代化へ急激な変化の時でした。そこに一人のカナダからの宣教師が静岡県に派遣され、学生たちに聖書の講義を始めました。学生には幕臣の子弟が多く、入信する者が増えてきました。

キリスト教の浸透を苦々しく思っていた今井は、「宣教師を斬るべし」という斬り込み隊長に選ばれました。竜馬に比べれば容易なことでした。しかし、斬る前に「聖書」とやらを読んでみるのも遅くはないと考えました。

折り良く、茶の取引のため横浜へ出かけたとき、通りかかった教会(現在の横浜海岸教会)に入りました。今井は、そこでこれまで邪教と嫌っていたキリスト教の深い真理に触れ、それ以来、熱心に聖書を学ぶようになりました。

やがて、信仰を確かなものとし、平岩牧師から洗礼を受けたのです。没落武士にとって新しい時代に確かな人生の指針と心のよりどころが欲しかったのでしょう。彼は「わたしが道であり、真理であり、命なのです。」と言われたキリストに人生のすべてを賭けようと決心したのです。



今井信郎

坂本竜馬を斬った男は、後にクリスチャンとなり、静岡県の初倉村の村長として地域の発展に尽力しました。「聖書を読んだサムライ」より

イベントのお知らせ

4月 8日 (木) 10時半～

お花見会 弁当持参のこと

4月29日 (木) 7時出発

合同聖会 伊勢市にて

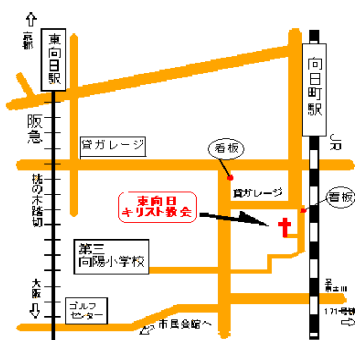
5月16日 (日) 1時半～

お茶会 立礼式のお点前です
どなたでも、お気軽におでかけください。

今井信郎がクリスチャンになった時、その性格は一変しました。殺気は消え、傲慢さのかけらもなくなり、自らも肥え桶を担ぎ、野良仕事に専念しました。やがて村長に就任し活躍しましたが、脳卒中で倒れ、大正七年に波乱の生涯を閉じました。七十八歳でした。

参考文献(聖書を読んだサムライたちより抜粋) いのちのことは社出版

教会案内図です



リストラから教会へ

私は、京都の丹後で生まれました。小学校三年の時、父親が病死しました。それから母は、弟と私を育てるため、働きに出るようになりました。学校から帰っても誰もいない寂しさのため、学校をたびたび休むようになりました。しかし、中学生になるとますます荒れて、家でも学校でも暴れるようになり、母親にも暴力を奮い、悲しませました。今、考えるに申し訳ない思いがします。

11のような状態では、高校に進学しても、これまで以上に母親に迷惑を掛けると思い、京都に就職することに決心しました。その後、店を転々と移り、今から十四年前に向日市の小さな弁当屋で働くようになりました。朝から夜遅くまで働きました。

その店に一緒に勤めていたYさんと言う人が仕事を教えてくれました。よく叱られました。根気よく教えてくれたことを感謝しています。

後にYさんが近くのキリスト教会に通っていることを知りましたが、その出会いが、後日、大きな助けとなりました。

Yさんが店を止めて数年後、この店が昨年七月に突然、閉店するのとなり、解雇されてしまったのです。臨時の採用だったの、アパートも出た、住むところもお金もなくな、途方に暮れました。遠い実家に帰っても、仕事もなくな、迷惑を掛けるばかりです。まさに、ネットカフェの生活か、ホームレスを覚悟しました。

その時、思い出したのは、Yさんのことでした。連絡を取ってみると親切に、一緒に考えてくれることができないので、Yさんの教会に行き、相談することを提案してくれました。これまで教会など自分とは無関係な所と思っていましたが、わらをも掴む思いで行くことにしました。

Yさんの紹介もあり、教会でアパート探しや引越しを一緒に手伝ってくれました。また幸い、調理の仕事口が見つかり、ホームレスにならずに済み、本当に感謝しています。それがきっかけとなり、教会に行くようになりました。最初は、良く分かりませんが、聖書を買って求め、少しずつ学ぶようになりました。

今までは、とにかくお金が第一と考え、いつも頭から離れないのは、お金でした。しかし、聖書に「人はパン(お金)だけで生きるのではない、神の口から出る正しい言の葉が命を成す」と書かれていたので、何か気持ちにやすらぎを感じました。

実家の母に、11の出来事を話したとき、母も以前、教会に行ったことがあると言って、とても喜んでくれました。母には随分と心配を掛けたので、時々、母の好きなものを送っています。教会に行くようになって、生活も気持ちも落ち着くようになったのでした。これからは、教会に行きながら、新しい職場で希望をもって働くことと思います。

H・W

詩

野道を一人で歩いていると
神様は名も無い花にも光を注ぎ
そっと蕾をふくらませ
かわいい花が咲くように
やさしく育ててくださった
神様は一人ぼっちのわたしにも
こちらへおいでと手をとり
みんなわたしの子どもだよ
仲良く一緒に生きようね

Y子

短歌

今はただボケるのだけは
助けてと主に祈るなり
朝な夕なに

俳句

心広くもちたしと思われ悲しくも
菜の花の根もとに白く残の露
H子
白梅や香のほのかに香をひく
待ちわびてこぼしのつぼみほこる
Y子

